

# 手に入った。おいでよ

## 壊れる 若者たち

覚せい剤汚染

年主流になった使い方だ。

「注射器だと怖いけど、遊びみたいで面白かった」



クミコとの出会いは、その数週間前。駅前で声をかけられた。携帯の番号を交換し、バイト先を紹介した。ミカは通信制高校に入学後、引きこもりの状態に。その後はバイト中心の生活。初めてできた年上の友だちだった。



1カ月後。部屋にカギをかけ、毎日吸うようになっていった。体重は48kg。「45kgになったらやめよう」。でも効き目が切れると体がだるく、動けなくなった。

静岡県に住むヨウジ(仮)は16歳の時、初めて覚せい剤を使った。野球で推薦入学した高校を1年で退学。バイト先で2歳年上のフリーター、シンと知り合った。

覚せい剤は暴力団とつながりのあるクミコの元恋人経由で買った。「手に入ったよ。おいでよ」。クミコから携帯に連絡が入る。1袋3万円。1、2週間で使い切った。2カ月後。ほかごけ、背中が骨が浮き出ているミカを不審に思い、部屋で覚せい剤を見つけた母(仮)が、警察に通報。ミカは逮捕された。現在、保護観察中だ。クミコは逃走し、今年2月、逮捕されたという。複雑な気持ちだった。「出会わなきゃよかったと思うけど、好きだった。人前で明るく振る舞うところとか、お互い似ていたの」

## 「やめられる」過信で深みに

家に遊びに行くと、シンは目の前で「あぶり」を始めた。驚いたが、好奇心が募った。使ってみた。「髪の毛逆立つような快感。めんどくさい感情が全部吹っ飛んだ。シンから1袋1万円です。覚せい剤を買ったが、もっと安手に入れようと、夜の繁華に立つ不法滞在の外国人かも購入した。

遊び仲間の前で、ヨウジ堂々とあぶりをやると、あという間に広まった。10人くのをまとめ買ひし、自分の分を抜き取った。「優越を感じた。自分はクスリはまらない自信があったんよね。不思議だけど」

18歳の時、友だちが次々逮捕され、ヨウジも少年院送られた。しかし、出院後使い続けた。

シンは、大量に覚せい剤さばく売人になっていたが1年半前、アパートの風呂で遺体が見つかった。死因不明。覚せい剤の使いすぎはないかとヨウジは思った。葬式で、シンの母親が泣ながら言った。「息子の死あなたたちへのメッセージ」

薬物依存専門の精神病院に入院している22歳の女性。「シャブがなくなると不安になって」。何度となく手首を切ってしまったという



覚せい剤事件の検挙者数厚生労働省の01年速報値では、検挙者は1万8110人(再犯者比51.1%)。未成年者は954人で、うち中学生45人、高校生88人。10年前に比べると、検挙者は1780人増加した。未成年者は横ばいだが、中学生は

# いよいよ

## 「やめられる」過信で深みに

家に遊びに行くと、シンが目の前で「あぶり」を始めた。驚いたが、好奇心が募った。使ってみた。「髪の毛が逆立つような快感。めんどくさい感情が全部吹っ飛んだ」シンから一袋一万円で見せたい剤を買ったが、もっと安く手に入れようと、夜の繁華街に立つ不法滞在の外国人からも購入した。

遊び仲間の前で、ヨウジが掌々とあぶりをやると、あっという間に広まった。10人近くの分をまとめ買いし、自分の分を抜き取った。「優越感を感じた。自分はクスリにはまらない自信があったんだよね。不思議だけど」

18歳の時、友だちが次々と逮捕され、ヨウジも少年院に送られた。しかし、出院後も使い続けた。

シンは、大量に覚せい剤をさぼく売人になっていたが、1年半前、アパートの風呂場で遺体で見つかった。死因は不明。覚せい剤の使いすぎではないかとヨウジは思った。

葬式で、シンの母親が泣きながら言った。「息子の死をあなたたちへのメッセージだ

覚せい剤事件の検挙者数  
厚生労働省の01年速報値では、検挙者は1万8110人(再犯者比51.1%)。未成年者は954人で、うち中学生45人、高校生83人。10年前に比べると、検挙者は1780人増加した。未成年者は横ばいだが、中学生は30人、高校生も41人増えた。

### クスリ代欲しさで「売人」に

「さらば、哀(かな)しみのドラッグ」などの著書のある高校教諭・水谷修さんの話。90年代半ば以降、不法滞在の外国人らが若者と覚せい剤のパイプ役になった。偽造テレホンカードを買いに来た若者たちに「スピード」「アイス」などの名で密売し、「あぶり」という新しい使い方も教えた。若者は、クスリを買う金欲しさに自ら「売人」と化し、支配しやすい年下の子を巻き込んでいく。今の標的は女子中学生。クスリを買わせ、売春をさせている。

と思っただけ」

中学の同級生は覚せい剤を使い続け、今は歩くこともできない。自宅に時々見舞いに行くが、会話は成立しない。ヨウジは半年間、覚せい剤を使っていない。「怖くなったからかな。でもね、目的や夢のないやつは怖さを知っている

でも使っちゃ。自分もそうだったから」

|| 文中仮名

若者のそばに覚せい剤がある。彼らのために、大人は何が出来るのか。今年政府の「薬物乱用防止5カ年戦略」の最終年。若者、親たちの声を聞いた。

# 息子を助けたい。だから……

## 壊れる

### 若者たち

覚せい剤汚染

中

たら、今もやめてないと願う  
「あいつは意志が弱い」と言うが、キヨコさんは

キヨコさんは、少しだけ気が  
楽になった。

■ ■ ■

平常心を装い、愛知県に住むキヨコさん(51)は、長男のタク(20)の携帯に電話をした。2年前のことだ。

「晩ご飯、今日は何で一緒に食べようか」

「うん。いそがし」

無邪気な返事に動揺した。でも電話を切った後、今度は警察にかけた。「息子は今夜、戻ってきません」

数日前、警察から連絡があった。飲食店で働くタクが、中高生らと集団で覚せい剤を使っているという。

何かを察したのか、戻ってきたタクは夕食を食べずに家を出た。夕暮れ時、門の外で数人の刑事に取り囲まれるのが見えたが、涙でかすんだ。面会に行っても気がとがめて、うまく話せなかった。

「息子をおるようなことをした。他に方法はなかったのだろうか。でも、早く覚せい剤をやめさせたかった」とキヨコさんは言う。

今回が2度目の逮捕だ。17歳の時にも、覚せい剤を持っているのを見つけたキヨコさんが通報した。

タクが中2の時から覚せい剤を使っていたことを、その時、警察の調べで初めて知った。当時、事業を始めたキヨコさんの帰宅は遅く、自営業の夫(57)も出張が多かった。夫は、「あいつは意志が弱い」と言うが、キヨコさんは

## 苦悩

そう簡単には割り切れない。

「悪いのはあの子。でも、あのころ、息子に目が向いてなかった。抱き抱えていなければいけない時期に、距離を置いてしまったのかも知れない」

少年院に入ったタクは、幻覚と幻聴の後遺症に苦しみ、現在は、依存症専門のクリニックに通院しながら自宅療養中だ。覚せい剤は1年10カ月使っていない。

先日、タクがこう言った。「あの時通報してくれなかつたら、今もやめてないと願うよ」

「親が支えるよ、子どもは『まだ見放されてない』と安心して薬物を使い続ける。やめさせたかったら、早く突き放しなさい」

2年前、宮城県に住む自営業のツトムさん(57)は、電話で相談した薬物依存症の民間

リハビリ施設「ダルク」のスタッフから、こう言われた。長男(20)が覚せい剤に手を出した。立ち直らせたくて相談したが、スタッフの言葉に、振りつめていた気持ちがぶつんと切れた。「今までオシは何をしてきたんだろう」

## 通報した。涙があふれた

覚せい剤の密売価格 全国の厚生局麻薬取締部の検挙者の供述などに基づく密売価格(00年)は、1回使用分0.03g程度で5千円~1万円。1g程度は5千円~5万円。似た効果のある合成麻薬のMDMAは1錠3500円~1万5千円。

息子の部屋でシンナーを見つけたのは10年前。仕事量を減らし、戻ってこない息子を捜し回った。借金の肩代わりもした。自立させようと仕事場の近くにアパートも借りてやった。「愛情を注げば、いつか息子は分かってくれる」。必死だった。だが、薬物依存は進んでいた。

ダルクに相談した後は、妻(56)とビジネスホテルに泊まり、息子と会うのを避けた。2カ月後、家にいる次男から電話があった。「兄さんが通報探偵に戻ってるよ」。ツトムさんは、警察に通報した。もう、限界だった。

長男は現在、覚せい剤取締法違反で服役している。まもなく仮出所だ。面会に行き、「自立するか、ダルクに行くか、病院に行くか、選びなさい」と伝えた。息子はダルクを選んだ。

先日、ダルクあてに息子が書いた手紙を見せてもらった。「本当にクスリをやめられるのでしょうか。これまで何度もチャレンジしたけれど、4、5日しか持たなかった」。不安な思いがつつられていた。

今後息子から電話が来ても、ツトムさんは言葉を交わすつもりはない。「あいつを助けたい。そのために、今は親の愛情を抑えて突き放すしかない」



東海地方で摘発された密売人の室内から、売り上げと見られる330万円の現金が発見された

田全 休口 自然 市農山 農林漁 240... 無料で配 岐阜 体験、一 探索、一 親子、一 日本、一 日本、一 ビデオ 大切な「命」 期と第 大切な「 大切な、愛

店の

# 死ぬかも。今度使ったら

## 壊れる 若者たち 覚せい剤汚染

「前に行った精神病院は、入院したくなくて暴れたら縛られて、朝起きたらオムツだったんだよ」

覚せい剤依存で入院中の女性(22)の言葉に、サトミ(24)は仮名は驚いて言った。

「ネー、サイテー」

群馬・赤城山のもとにある依存症専門の民間病院、赤城高原ホスピタル。

サトミは入院して4日目。

20日前まで覚せい剤を使っていた。入院するためには、尿検査が義務づけられている。反応が出ると警察に通報される。

「やばいと思ったけど、OKだった。覚せい剤は19歳の時からかな。今度使ったら、死ぬかも」。明るく、(22)とのように言った。

病室は、開放病棟の4人部屋。届けを出せば外出もできる。

約100人の入院患者のうち覚せい剤やシンナーなどの薬物依存は約20人。離脱症状や幻覚・妄想がひどい患者だけ、落ち着くまで閉鎖病棟に入る。

「依存を治す薬はない。本人がやめたいと思った時に、その気持ちを支えるのが我々の役割。初回入院では『怖い所じゃないんだ』と感してもうえは合格。入退院を繰り返して回復していく」と竹村道夫院長。

治療プログラムの中心は、

### 回復

朝と夕の2回の患者だけのミーティング。親を対象にしたミーティングもあり、サトミの母親も数カ月前から通っている。いずれも悩みを共有する者同士で学び、支え合つのが目的だ。

だが、精神面での依存を断ち切るのは容易ではない。自主退院や薬物の持ち込みなどによる強制退院で、半数以上が1カ月以内に病院を去る。サトミも、「また来るからね」と言い残し、1週間で退院して行った。

大阪府に住むサトシさん(63)は仮名だが、長男(31)の薬物依存を知ったのは7年前。息子は入退院を繰り返した後、ダルクに入所した。

現在、薬物依存の患者を受け入れる精神病院は、全国に数えるほどしかない。「病院内の安全確保が難しく、診療報酬が少ないうえに、背景にあります」。治療ネットワークを作ろうとしている国立肥前療養所(佐賀県)の比江島誠人医師は指摘する。

こうした中で、薬物依存者の社会復帰を支えているのが民間組織「ダルク」だ。全国に26カ所あり、入所者は1日3回のミーティングに参加しながら回復を目指す。

■ ■ ■

## 足りぬ病院。支援の場を

受刑者と少年院収容者 法務省によると01年の年末在所受刑者のうち、覚せい剤取締法違反は男性27%、女性46%。01年の少年院新収容者では、男子4%、女子29%。複数の罪名、非行名で収容の場合、法定刑の重い方(強盗、傷害など)でカウントされている。

ダルクに一度つながつても、再使用してしまう若者は多い。社会復帰率は約3割だ。「ダルクに行ってもやめられへん」と周囲は思っていたが、息子は2年間がんばり、今は社会復帰を目指す人たちのためのミーティングに参加しながら、働いている。

仕事を定年退職したサトシさんは、今年2月に大阪で始まった薬物依存者の父親の会に参加している。先日、息子と2人きりで初めて喫茶店に入った。「ダルクを介して、ようやく父と息子の関係がスタートしたと思います」

入所者の多くが、10代で薬物を使い始め、20代後半でダルクにたどり着く。「それでは遅い。身体へのダメージが大きすぎる。10代の乱用段階から依存初期からかわりたい」と茨城ダルクグループ代表の岩井喜代仁さん。

■ ■ ■

今年6月、衆議院の青少年問題に関する特別委員会。参考人として出席した日本ダルクの近藤恒夫代表は、約20人の議員に再使用の予防策の必要性を訴えた。

「若者が困った時に飛び込める場を、国家的に作ってください。場がなければ、何も生まれません」

(この連載は、文・諸妻美紀、写真・鎌田正平が担当しました)



覚せい剤がらみの犯罪が増え、女子刑務所の多くは定員オーバー状態だ。受刑者の7割は乱用の経験があると見られている